

第1部 木材耐久性Ⅰ：「木材と木造住宅の耐久性—常識・非常識—」 今村祐嗣

- ・ 法隆寺の心柱には卑弥呼の呼気がつまっている・・・
- ・ キノコが出たら、中はすでに腐っている。菌糸が木の中身を食べきったら表にキノコが出る。
- ・ 腐朽菌には褐色と白色があり、褐色はセルロースだけを分解するので強度低下が激しい。
- ・ 腐れは木口から。面に比べ木口からは何百倍も早く水が入る。
- ・ 辺材は、腐る。
- ・ 結露 → 腐る → 酸性に → 錆びる
- ・ 石端立ての柱の根元が白化するの腐れではなく石の成分。緑化は藻。
- ・ カビでは劣化しない。防かび剤の効能は一時的なもの。
- ・ 四寸柱は乾くが五寸柱は自然乾燥では乾ききらない。
- ・ シロアリの祖先はゴキブリ。蜂、蟻とは別モノ。木を食べる木ゴキブリ。
- ・ シロアリ（ターマイト）は胴にくびれがなく羽が前後とも同じ大きさ。
- ・ 蟻（アント）はくびれがあり前の羽が大きい。
- ・ 家に人が住まなくなると入ってくる。無人化に注意。
- ・ 腐れにもシロアリにも強いウリンなどの南洋材は成長が遅い。安易に伐るべきでない。
- ・ 薬剤注入を適切に行うと特に耐久性の低い木材には有効。
- ・ 木材を熱すると、腐りやすく、カビやすくなる。
- ・ 焼き杭、焼き板など、焦げの内側は腐りやすくなる。
- ・ 耐久性は、設計、材料選択、加工、使用、診断、保守といった多くの要素の複合的な成果。

第2部 木材耐久性Ⅱ：「日本酒を飲んで田を救い、伝統工法の家を建てて山を救おう」 古川保

- ・ JASは加工技術である。
- ・ ガルバ鋼板の屋根に台風の飛来物で傷がついたら全面張り替え。瓦なら数枚のみ。
- ・ 3m材を2.7m材にできれば、30mの材からとると一割安いことになる。
- ・ 筋交い構法が硬くてもろい柿の木なら貫構法は柳の木。
- ・ 筋交い構法：初期強度が高くても早く折れる。貫構法：初期強度は低いが粘って壊れにくい。
- ・ 人が住んでると、光、音、風で、上がってこない。
- ・ 基礎断熱はシロアリ誘因装置。
- ・ からからに乾いた材では伝統工法は建てにくい。
- ・ 木材の自給率2割、食糧4割。
- ・ 人工乾燥するために生材を動かすと輸送費がかかる。伐った直後の含水率は200%。
- ・ 山で乾かしてから動かすべき。
- ・ 目が詰まっているのが必ずしも良材ではない。見かけの悪いのが強い。
- ・ 人工乾燥材は酸っぱいにおい。酸性になる。木の澱粉が酸性になる。
- ・ 節の無い木（1級）なら米松が強いが、2級3級は杉の方が強い。
- ・ 米松のE90 ≒ 杉のE50
- ・ 大スパンなら支点中央部のヤング係数、含水率が重要だが、小スパンなら接合部が弱点。ヤング係数や含水率は問題でないのでは。
- ・ 角に柱がなければHDは不要。設計手法で金物は不要。

第3部 意見交換「木材耐久性について」

- ・ 防腐処理業をしている。未乾燥材に注入はできないのに、前乾燥の工程がとばされてるケースが多い。委託注入が6割。十分な注入ができないことが多い。公共工事の時間的切迫が主因。行政に留意を促す必要あり。
- ・ 木造建築で、まずは「やらかしてしまった」ことを共有することが大事。大企業では内部で共有してみんなて解決する自浄的作業を行っている。
- ・ 腐朽菌、菌糸が木の中を食べつくして、孢子となって表に出てキノコに。

- ・ 防蟻防蟻処理の効果の期限は、薬剤の効能期限を言っている。
- ・ 改修した部分周辺のリスク、何に留意？ → たとえばまずは、なぜ腐ったのかの原因究明。その原因をカットすること。
- ・ 外壁に立てかけた鍬からシロアリが入ることもある。
- ・ 再処理の要否は？ → お施主さん次第。メンテが面倒な人は仕様書通りに再処理を、お金をかけて。自分で面倒を見たい人は不要。住まい方で判断。一様ではない。
- ・ 古川先生、床下に風を通す構法、はじめて10棟。
- ・ 今までに設計した家でシロアリが入ったのが6棟。
- ・ 下駄は鼻緒を変えれば何年も持つ。柱も根元を取り換えられる。
- ・ 「何年もつか？」よりも、「やられたら交換する」。点検が一番
- ・ 早期発見 → 情報公開 → 対処が可能に
- ・ 石油製品は30年しかもたない。合板の床、ノリが済んでしまってもふかふか。
- ・ 縁側の先端から露が落ちる。それを感知してシロアリが来る。水の流れに沿ってあがる。
- ・ 床下点検は9月。4月からシロアリが活動を始めて、蟻道ののびる季節。
- ・ 竣工時に「シロアリガイドブック」をつくって、説明して、渡しておく。メンテ、チェックの手法
- ・ 基準ののっとっていけばそれにいい、のではない。
- ・ 石膏ボードは300円。処分に600円かかる。900円で売るべきだ。
- ・ 真壁が高いというが、耐久性をカウントすれば安いもの。土壁の家は100年もつ。大壁の家が25年とすれば四倍。
- ・ 基準法がまずい。筋交いを入れて、検査受けてから外すことも。
- ・ 伝統工法になると働き場は10倍に。心ある人には広めたい。
- ・ 家を建てるときに、奥さんはこどもと、孫までを考える。我々は職人の保護を考える。
- ・ 施主が神様？
- ・ こどものためにいい家を。そのためにいくらかかかっても。
- ・ 学生の傾向として、農学部には、で山をしたい、環境をしたい女子が増えてきた。
- ・ 小中生を対象に木育を。10年20年かかる話。
- ・ 水害の後の処理？ → 一日濡れても三日あれば戻る。土台も根太もいける。昔からの知恵、設計をまく程度でOKではないか。
- ・ 土壁は、芯が硬い。外の土は落ちてよい。落ちることで力を吸収する。RCはひびが入って耐力低下したらおわり。どうしようもない。
- ・ 山本長水さん、断熱材は発布スチロール。濡れても乾けば戻るから。

第4部 @たきち

- ・ 伝統工法をないがしろにしなが、人の力でむりやり性能をあげている？傾向がある。
- ・ 地方分権には大きな目的がある。中央省庁少人数で大変。大きな目標は中央でやるとしても以降は地方でやっていくべき。中央がその力を離したくないということも・・・
- ・ 限界耐力法での計算料、22万円だったのを8万円にした。
- ・ おじいさんが植えた木を自分が売る。この山の木でいい家を建てる、ちゃんと使ってくれる人、いい設計士と仕事がしたい。
- ・ 多様性が大事。一元的はだめ。中央からではなく地方から。しんどくてもやっていくしかない。
- ・ 施主力も大事。些末なことばかりではなく、いくら？ばかりでなく。大事なことを考えないと。役所からしてすでにそう！
- ・ まないた、おひつ、木をさわる日本文化の民族。雑巾のかけ方・・・
- ・ 日本の歴史は生活者の歴史。
- ・ 人の音がしなくなったらシロアリが来るなら、床下に音を流しておく？
- ・ 徳島杉の家はすなわち演歌的？
- ・ 黒芯は安いシロアリには強い。
- ・ 若い大工さんに言い伝えたい。わかいしへ引き継ぎたい。
- ・ 防蟻処理の現場の話はよかった。本当のことを言える様になってきた！

- 点検することが前提の家を。
- 土、木、わら、資源大国日本。伝統構法を残していけば100年後に芽を吹く。
- 木と金属は相性悪い。
- 科学は役に立つ。3. 11の反省から、その対立軸を考えるように。建築も同様に。